パブリックコメントにおける意見の概要

No.	意見の概要
1	<p>LGBTQの方々は当然あるべき権利がない、社会的に認められていないとされる存在に苦しんでいることでしょう。</p> <p>町がパートナーシップ制度を導入することに賛成です。</p>
2	<p>近くの市町村でもパートナーシップ制度の導入を行っていると聞いていたので、江差町も導入の方向と聞いてよかったと思っています。</p> <p>弱い人、社会の中で少数の人が自分の人生に生きやすくなるということは、少数者でない人にも、生きやすくなると思うからです。</p> <p>そして、このことの大切なことは、人権の問題でもあると思うからです。</p> <p>アメリカのトランプ大統領が男と女の二つしかないということは、意図的なジェンダーではないかと思います。</p> <p>いろいろな場面で学習し、身につけていく努力が必要ではないかと考えます。</p>
3	<p>パートナーシップ制度に賛成します。</p> <p>知り合いは、パートナーシップで悩んでいると聞いています。</p> <p>制度導入になる事を望んでいます。</p>
4	<p>国政及び地方自治いずれにおいても、国民又は住民が権力に対する猜疑心に基づく不断の監視を継続することを通じて、民意を反映させ、かつ、国民又は住民が権力に対するコントロールを働かせながら、運営されるべきものである。そのため、性の多様性に対する町民の理解が醸成されていない現状において、本件条例を制定してしまえば、民意の反映及び権力に対するコントロールのいずれもが実現しない。それにもかかわらず、本件条例によって町民に配慮義務（本件条例第8条第3項）を課すのであれば、民意に基づく地方自治の実現とはほど遠く、権力が民意に服従を強いる逆転現象を生じさせることとなる。これは、憲法の趣旨を真っ向から蔑ろにするものであり、憲法尊重擁護義務（憲法第99条）に違反するものである。</p> <p>以上のとおり、本件条例には立法事実を欠くという重大な瑕疵があること、換言すれば、本条例を制定することが拙速にすぎることから、本条例を制定することは、控えるべきである。</p>
5	<p>パートナーシップ制度はLGBTQ性的なマイノリティの方の生活に寄り添った形が取り上げられやすいですが、男女別姓や現状の法律では適応できないパートナーの形もフォローできるようにする事を望みます。</p> <p>異性同士のパートナーですと内縁関係というものがありますが、同一住居といった一定度の条件もあり適用されないパートナーもあります。</p> <p>個人的な話になりますが、具体例として一定程度の年齢になり親の介護が視野に入ってくる年齢同士のパートナーとの形としては、男女別姓・別世帯でもパートナーとして認めてもらえる制度を求めています。</p>